

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟工科大学
設置者名	学校法人 新潟工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	工学科	夜・ 通信	7	0	6	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/wp-niit/wp-content/themes/niit/file/student/jitumukeiken_list.pdf)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟工科大学
設置者名	学校法人 新潟工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/wp-niit/wp-content/themes/niit/file/outline/riji_kanji_list.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	北越工業株式会社 相談役	2021.4.1～ 2023.3.31	広報・学生募集ほか
常勤	伊藤忠メタルズ株式会社 金属リサイクル事業部副 事業部長 新潟支店長	2021.4.1～ 2023.3.31	広報・学生募集ほか
非常勤	サトウ食品株式会社 相談役会長	2021.4.1～ 2023.3.31	研究・産官学連携
非常勤	株式会社コロナ 取締役 執行役員 総務部 長	2021.4.1～ 2023.3.31	教育・学生支援
非常勤	柏崎市長	2021.4.1～ 2023.3.31	教育・学生支援
非常勤	株式会社ブルボン 代表取締役社長	2021.4.1～ 2023.3.31	研究・産官学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟工科大学
設置者名	学校法人 新潟工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、毎年1月初旬の教務学生委員会においてシラバスの作成指針を検討し、2月初旬までに作成している。その後、2月末までに学内第三者による点検を行った後、3月下旬から大学ホームページにおいて公表している。</p> <p>作成時には特に留意事項として、学修成果の可視化の観点から、各科目の到達目標とDPへの繋がり、科目間の連携についてカリキュラムマップと整合性が図られているかを意識しながら作成している。</p> <p>また、本学の入力事項は次のとおりである。</p> <p>①授業の目的・概要、②授業計画、③評価方法・評価基準、④必要な準備学習(予習・復習)及び時間、⑤テキスト、⑥参考書、⑦学生へのメッセージ・備考、⑧実務経験のある教員</p> <p>なお、授業の方法(講義、演習、実験・実習等の別)は一覧を作成している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにおいて公表</p> <p>(https://portal.niit.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学では、シラバスに記載された評価方法及び評価基準に基づき、試験又はレポートにより到達目標の達成度を確認し、その度合いにより単位を授与している。</p> <p>なお、履修した科目の成績評価は、S、A、B、C及びDをもって表し、S、A、B及びCは合格、Dは不合格とし、その基準は次のとおりとする。</p> <p>S：90点以上100点以下 到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめているか、または修得した力を展開できる。</p> <p>A：80点以上90点未満 到達目標を十分に達成している。</p> <p>B：70点以上80点未満 到達目標を相応に達成している。</p> <p>C：60点以上70点未満 到達目標を最低限達成している。</p> <p>D：59点以下 到達目標を達成していない。</p> <p>※点数評価によらない科目の成績評価は、別途定めている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、成績評価方法として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を導入している。授業科目ごとの成績評価を、以下のGP（グレード・ポイント）に置き換え、1単位あたりの平均値により表す。</p> <p>S = 4点、A = 3点、B = 2点、C = 1点、D = 0点</p> <p>(GPA算出の計算式)</p> $\frac{(GPA対象科目の単位数 \times GP)の総和}{GPA対象科目の単位数の総和}$ <p>※点数評価によらない授業科目等の一部を対象外とする。</p> <p>なお、2020年度入学者の成績分布では、下位1/4となるGPAが1.54以下であり、成績評価は適切に行われていると判断する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/info/file/risyuuguide.pdf)
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学での学習成果は、厳格に定められた単位認定制度に基づき単位を授与することにより評価し、本学が定める所定の単位（124単位以上）を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。</p> <p>卒業までに学生が身につけるべき資質は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A 自然科学や情報技術等の基礎知識を修得し、それを応用し得る基礎能力 B 工学分野での専門知識・技術を修得し、それらを応用し得る基礎能力 C 工学以外の諸分野での幅広い学問的教養 D 効果的にコミュニケーションをとることができる基礎能力 E 社会人としての倫理観を培い、それに基づいて行動できる基礎能力 F 生涯を通して学び続けることの大切さを認識し、それを実行できる基礎能力 G 現実を踏まえ、公衆の安全や環境など配慮すべきことについて理解し、課題解決に取り組む基礎能力 <p>なお、卒業判定は、卒業研究発表会及び成績処理後、学長・副学長・学科長・教務主任等に事前に報告した後、教授会にて慎重に審議の上、判定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/info/file/risyuuguide.pdf)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟工科大学
設置者名	学校法人 新潟工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/) 紙媒体による大学事務局での閲覧 (要申請)
収支計算書又は損益計算書	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/) 紙媒体による大学事務局での閲覧 (要申請)
財産目録	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/) 紙媒体による大学事務局での閲覧 (要申請)
事業報告書	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/) 紙媒体による大学事務局での閲覧 (要申請)
監事による監査報告(書)	<ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/) 紙媒体による大学事務局での閲覧 (要申請)

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法:
中長期計画 (名称: _____ 対象年度: _____)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/info/file/jikotenken_2014.pdf)

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部工学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/info/file/jikotenken_2014.pdf))
(概要) 本学は、教育基本法に基づき学校教育法に定める大学として、本学の建学の精神に則って、工学に関する深い教育を授け、豊かな国際的教養と人格をもつ人材を育成することにより、日本の技術の発展と地域社会の開発に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/course/policy/))
(概要) 本学は、「ものづくり」の視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成することを使命として、地域産業界・社会に貢献できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいた教育課程を提供している。そして学習成果は、厳格に定められた単位認定制度に基づき単位を授与することにより評価し、本学所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/course/policy/))
(概要) 工学分野に関わる総合的能力の習得を第一に図るものとしつつ、就業に繋がる専門分野の知識と技術を習得するために、段階的に整備された以下の修学システムを提供する。 1 年次は、共通の素養として求められる人文及び自然科学系の基礎科目や工学の基礎を学びながら幾つかの専門分野を俯瞰するプログラムを提供する。 2 年次は、学系と称する大きな専門領域に渡るプログラムを「学系プログラム」として、専門分野における知識を修得するプログラムを提供する。 この学系プログラムにおいて習得した知識と技術を基として、3 年次からは、さらに深い学問領域を考察し、就業に繋がる専門分野の習得を目的として細分化した「コースプログラム」と称する学習プログラムを提供する。 4 年次には、各コースの専門科目に加え卒業論文作成のためのプロジェクト型卒業研究を提供する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/course/policy/))
(概要) 本学は、「ものづくり」の技術者を渴望する新潟県内企業約 5 0 0 社、新潟県、柏崎市をはじめとする市町村などの支援を受けて、1 9 9 5 年に設立された大学である。建学の精神は「ものづくりの視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成する」ことである。

建学の精神を受けて、本学では次のような学生を求めている。

■本学の基本理念である「ものづくり」に強い関心がある人

現代社会を支えるには「ものづくり」が必要不可欠である。身の回りにある、生活を豊かにする住まい、道具、機械などは、「ものづくり」によって生み出される。このような、人と社会を支える「ものづくり」に強い関心がある人を求めている。

■本学で学んだことを活かして、社会で活躍したいと考えている人

本学の使命は、産業界の発展を担う人材育成であることから、自己の知的欲求を満たすことだけを目的とするのではなく、「ものづくり」を支える技術者として、また新しい技術や製品の開発などの「ものづくり」を進化させる技術者として、修得した知識・技術を社会に還元したいと考えている人を求めている。

■本学の特徴を理解し、提供する学習プログラムで学びたい人

現代の「ものづくり」は、さまざまな分野の技術者が一緒になって行われており、企業では「得意分野の深い知識を持つ技術者」だけではなく、「複数分野の幅広い知識を持つ技術者」の両方を求めている。この両方の技術者育成を可能にするフレキシブルなカリキュラムを理解し、自己の目標を持って積極的に学びたい人を求めている。

上記に該当し、本学への入学を希望する人は、以下の能力などを身に付けておくことが望まれる。

(1) 知識・技能

工学を学ぶ上で必要な高等学校における数学、理科（物理、化学、生物）、英語の基礎学力を修得している。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会の様々な問題（特に工学分野における課題）について、読む・聞く・話す・書くという基礎的な能力を身につけている。また、持てる知識や情報をもとにして、論理的に自分の考えを説明することができる。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動などの経験があり、他の人と協力しながら、課題をやり遂げることができる。

多様な入学希望者の上記能力などを総合的・多面的に評価するため、以下の入学者選抜を実施する。

●総合型選抜

自己推薦書、活動報告書、面接、基礎学力確認テストの結果及び調査書により、総合的に評価する。

●学校推薦型選抜（専願型、公募型）

面接、基礎学力確認テストの結果、出願書類及び調査書により、総合的に評価する。

●一般選抜

・特色型：筆記試験（記述式）の結果を重視し、出願書類を含めて総合的に評価する。

・併用型：筆記試験（記述式）と大学入学共通テストの結果を重視し、出願書類を含めて総合的に評価する。

●大学入学共通テスト利用選抜

試験の結果による能力を重視し、出願書類を含めて総合的に評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにおいて公表 (<https://www.niit.ac.jp/course/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
-	3人	-					3人
工学部工学科	-	17人	20人	3人	1人	0人	41人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				35人			35人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページにおいて公表 (https://www.niit.ac.jp/kotozukuri/resource_db/)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	200人	177人	88.5%	810人	701人	86.5%	5人	0人
合計	200人	177人	88.5%	810人	701人	86.5%	5人	0人
(備考) 3年次編入学入学定員 5人								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	134人 (100%)	9人 (6.7%)	118人 (88.1%)	7人 (5.2%)
合計	134人 (100%)	9人 (6.7%)	118人 (88.1%)	7人 (5.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：新潟工科大学大学院				
就職先：北越工業株式会社、株式会社植木組、株式会社福田組、株式会社ブルボン				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、毎年1月初旬の教務学生委員会においてシラバスの作成指針を検討し、2月初旬までに作成している。その後、2月末までに学内第三者による点検を行った後、3月下旬から大学ホームページにおいて公表している。</p> <p>作成時には特に留意事項として、学修成果の可視化の観点から、各科目の到達目標とDPへの繋がり、科目間の連携についてカリキュラムマップと整合性が図れているかを意識しながら作成している。</p> <p>また、本学の入力事項は次のとおりである。</p> <p>①授業の目的・概要、②授業計画、③評価方法・評価基準、④必要な準備学習（予習・復習）及び時間、⑤テキスト、⑥参考書、⑦学生へのメッセージ・備考、⑧実務経験のある教員</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、シラバスに記載された評価方法及び評価基準に基づき、試験又はレポートにより到達目標を確認し、その達成度合いにより単位を授与している。</p> <p>なお、履修した科目の成績評価は、S、A、B、C及びDをもって表し、S、A、B及びCは合格、Dは不合格とし、その基準は次のとおりとする。</p> <p>S：90点以上100点以下 到達目標を十分に達成し、優秀な成果をおさめているか、または修得した力を展開できる。</p> <p>A：80点以上90点未満 到達目標を十分に達成している。</p> <p>B：70点以上80点未満 到達目標を相応に達成している。</p> <p>C：60点以上70点未満 到達目標を最低限達成している。</p> <p>D：59点以下 到達目標を達成していない。</p> <p>※点数評価によらない科目の成績評価は、別途定めている。</p> <p>また、本学が定める所定の単位（124単位以上）を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。</p> <p>卒業までに学生が身につけるべき資質は、以下のとおりとする。</p>

A 自然科学や情報技術等の基礎知識を修得し、それを応用し得る基礎能力 B 工学分野での専門知識・技術を修得し、それらを応用し得る基礎能力 C 工学以外の諸分野での幅広い学問的教養 D 効果的にコミュニケーションをとることができる基礎能力 E 社会人としての倫理観を培い、それに基づいて行動できる基礎能力 F 生涯を通して学び続けることの大切さを認識し、それを実行できる基礎能力 G 現実を踏まえ、公衆の安全や環境など配慮すべきことについて理解し、課題解決に取り組む基礎能力				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	工学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにおいて公表
 (<https://www.niit.ac.jp/campuslife/facilities/>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	工学科	880,000 円	200,000 円	400,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度入学生まで ・その他の欄に計上した費用 施設設備整備費 250,000 円 実験実習費 150,000 円
工学部	工学科	920,000 円	200,000 円	460,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度入学生から ・その他の欄に計上した費用 施設設備整備費 280,000 円 実験実習費 180,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学年ごとに、学生を少人数のグループに分けて助言教員を置き、修学指導を行っている。 助言教員は、履修計画などの修学に関するグループ指導や個別指導を行う。また、学生生活のなかで生じる様々な問題や悩みごとについての相談窓口として、アドバイスをを行う。1年次は所属クラスの教員が、2年次から卒業研究指導教員が決定するまでの間は選択した学系の教員が助言教員となる。卒業研究指導教員は、助言教員として修学指導等を引き継ぐこととなる。
--

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

全体的には、キャリア・産学交流推進課が、就職ガイダンス等により就職活動を支援し、個別的には、就職指導委員が様々な求人情報の提供を行い、学生の資質、能力、志望にかなった就職が可能となるよう支援している。

また、個別の相談については、学生の個性を一番良く知っている卒業研究指導教員が指導にあたっている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○学生サポートルーム

本学では、学生の困り事（勉強、将来、友達等）の解決のため、学生サポートルームを設置している。相談は、専門のカウンセラーによる心理相談と、本学教員による修学相談がある。

○障害のある学生の支援

本学では、障害により学習や学生生活に制限を受ける学生に対し、学生サポートルーム、関係各署、教職員が連携して修学上の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページにおいて公表

(<https://www.niit.ac.jp/outline/info/disclose/>)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F115310105131
学校名	新潟工科大学
設置者名	学校法人 新潟工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		58人	59人	68人
内 訳	第Ⅰ区分	36人	33人	
	第Ⅱ区分	22人	26人	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				68人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。